

科目名	社会福祉学				
担当教員	工藤 大地		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	現代社会における福祉制度と福祉政策の展開やその概念と意義について理解し、現代社会の生活問題に注目しつつ福祉政策の現状と課題について知識を身につける。福祉制度の発達過程について現代社会の問題についての見識を広め、福祉制度や福祉政策の意義について理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	日本の社会福祉を支えてきた歴史的人物を通して、時代背景について歴史的な視点をもって福祉活動の意味について理解することができる。福祉国家成立や現代までの展開を理解し、視野を広げ、福祉制度の仕組みについて理解し、社会福祉の今後について考えることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	現代社会と福祉（中央法規）、福祉小六法（中央法規）、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会福祉士の定義、社会福祉・福祉政策・社会政策の位置づけ、社会福祉のL字型構造、福祉政策のブロックリー型構造		オリエンテーション、指定教科書P2～P10		
2	福祉多元主義、福祉レジーム、現代社会の変化と福祉（人口・労働・家族の変化）		指定教科書P12～P21		
3	社会の変化と福祉、市民権の確立と福祉国家の成立（公民権、参政権、社会権）		指定教科書P22～P30		
4	福祉と福祉政策（広義・狭義の社会福祉）		指定教科書P32～P42		
5	施策コラボレーションとしての福祉政策、キーパーソンとしての社会福祉士		指定教科書P43～P53		
6	社会政策と福祉政策、公共政策、必要・資源・配給		指定教科書P78～P85		
7	社会政策と福祉政策（社会政策、雇用と所得保障、社会サービス）、福祉政策の体系（第1種・第2種社会福祉事業）		指定教科書P86～P96		
8	福祉政策の国際比較（欧米の福祉政策、国際比較からの日本の位置）、スウェーデン・アメリカ・ドイツの高齢者介護		指定教科書P302～P314		
9	イギリスの高齢者介護		指定教科書P315～P319		
10	東アジア諸国の福祉政策（韓国・中国・台湾）		指定教科書P320～P340		
11	福祉政策の発展過程、民間慈善事業活動、感化救済事業、社会事業		指定教科書P98～P104		
12	第2次世界大戦までの社会事業（救護法、社会事業法）、戦後改革と高度経済成長期の福祉（福祉三法、福祉六法）		指定教科書P105～P114		
13	欧米諸国における貧困の再発見、人間の尊厳を問う裁判		指定教科書P114～P118		
14	福祉政策における必要と資源、必要と需要、必要と福祉政策		指定教科書P158～P170		
15	前期のまとめ、前期振り返り試験				

16	必要の判定、福祉政策の資源、ブラッドショーの4つのニーズ	指定教科書P171～P178
17	福祉政策の調整と進展（「福祉元年」以降）、日本型福祉社会の特徴、社会福祉行政事務の推移	指定教科書P122～P128
18	社会保障制度審議会（50年・62年・95年勧告）、21世紀福祉ビジョン—少子・高齢社会に向けて、福祉政策の提言内容	指定教科書P129～P131
19	福祉関係八法改正の概要、社会福祉基礎構造改革の概要	指定教科書P131～P141
20	高齢者・児童に関する施策、障害者に関する施策、虐待に関する施策、就労支援に関する施策	指定教科書P141～P155
21	福祉政策の理念・主体・手法、選別主義から普遍主義、措置制度から契約利用制度	指定教科書P180～P193
22	福祉政策の手法と政策決定過程・評価、現金給付と現物給付、ニューパブリック・マネジメント、アカウンタビリティ	指定教科書P194～P202
23	福祉政策の関連領域	指定教科書P204～P208
24	人権擁護・保健医療と福祉政策	指定教科書P209～P217
25	所得保障・雇用・教育・住宅・震災と福祉	指定教科書P218～P241
26	福祉の思想と哲学、市場の論理と倫理、福祉の視野、ロールズの正義論、センの潜在能力理論	指定教科書P56～P76
27	社会福祉制度の体系、社会福祉制度の構造、福祉サービス	指定教科書P244～P263
28	福祉サービスの提供、福祉サービスの提供と運営管理部門	指定教科書P266～P282
29	後期のまとめ	
30	期末試験、全体のまとめ	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければならない。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴		無し

科目名	社会福祉援助技術論 I				
担当教員	坂井 義道		実務授業の有無	○	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	将来ソーシャルワーカーとして必要な土台となる、社会福祉援助技術の基盤を学ぶ。ソーシャルワーカーに必要な、価値、知識、技術を、演習を通して学び、実践力を高める。ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの基盤となる考え方。ソーシャルワークの誕生から今日に至るまでの歴史。ソーシャルワークの倫理。支援者に必要な価値、技術、知識について（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用）				
学習目標（到達目標）	ソーシャルワークが先人の実践の上に築き上げた理論であることを理解し、それを受け継いだそれぞれが、実習、将来の相談援助で支援に役立て、工夫することができる。倫理綱領を学び、援助者として判断の指針とすることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「ソーシャルワークの基盤と専門職」（中央法規）を参考図書として、授業資料を配布する。 「支援者が成長するための50の原則」（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ		授業時に配布する資料により講義		
2	ソーシャルワークの概念		授業時に配布する資料により講義		
3	ソーシャルワークの概念		授業時に配布する資料により講義		
4	ソーシャルワークの概念		授業時に配布する資料により講義		
5	シャルワーク基盤となる考え方		授業時に配布する資料により講義		
6	シャルワーク基盤となる考え方		授業時に配布する資料により講義		
7	ソーシャルワークの形成過程 1		授業時に配布する資料により講義 課題 1		
8	ソーシャルワークの形成過程 2		授業時に配布する資料により講義		
9	ソーシャルワークの形成過程について 課題発表		授業時に配布する資料により講義		
10	ソーシャルワークの倫理綱領について		授業時に配布する資料により講義 課題 2		
11	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲		授業時に配布する資料により講義		
12	ソーシャルワークの倫理綱領について 課題発表		授業時に配布する資料により講義		
13	ソーシャルワークの倫理綱領について 課題発表		授業時に配布する資料により講義		
14	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク		授業時に配布する資料により講義		
15	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容		授業時に配布する資料により講義		
16	序章 建てかけ家 豊かな人間性を培う		P6 以下ページNOは「支援者が成長するための50の原則」テキストを記載 演習		

17	慈愛 視覚教材「マザーテレサ」から学ぶ	P16 演習
18	セルフエスティーム、ストレングス視点	P32 演習、 P112
19	専門職の価値と倫理 視覚教材「プロジェクトX 炎に飛び込んだ男達」	p38 演習
20	利用者利益の最優先	p62 演習
21	個性と多様性 視覚教材「西光万吉 水平社」	p54 演習
22	自己決定、受容	p66 演習
23	社会正義	P100～ 演習
24	信頼関係を築く、傾聴、共感、カウンセリング	P96、P104～ 演習
25	社会正義 視覚教材「ハンセン病の詩人、桜井氏」から学ぶ	P78～ 演習
26	ライフストーリー ライフストーリー課題：身の周りの人からの聞き取り	P108 演習
27	プランニング、危機介入	P120 P134 演習
28	人と環境への働きかけ、社会資源を開拓する	P138 演習
29	権利擁護活動、エンパワメント 視覚教材「キング牧師」に学ぶ	P146 演習
30	まとめ	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<p>・成績評価は原則各科目終了時に実施・課題提出・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等・評価内訳はテスト：課題：授業態度＝6：2：2とする。・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</p>		<p>科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。</p>
実務経験教員の経歴	<p>高齢者分野における相談援助の実務経験のある教員が、支援者として必要な知識、援助技術の基礎について理解を深める科目である。</p>	

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ				
担当教員	工藤 大地		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必須	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	相談援助の基本的構造と機能、援助の展開過程の理解、面接技法をはじめとした基本的援助技術、ソーシャルワーク実践の理論、アプローチの基本的理解と活用について学ぶ。相談援助実習に向けて対人援助に必要な人と人との信頼関係の築き方、コミュニケーションなどソーシャルワークの基本的な技術の習得と、事例に基づく実践の学問としての応用を学んでいく。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	ソーシャルワークにおける相談援助（個別支援等）の意義や理論と方法の基本的知識を学び、ソーシャルワークの価値、倫理、技術、理論等の知識をふまえて、援助実践を考察できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	相談援助の理論と方法Ⅰ（中央法規）、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、ソーシャルワーカーとは（定義と役割）		オリエンテーション、指定教科書P2～P8		
2	ソーシャルワークの構成要素（目的、価値、知識、方法・技能、権限の委任）		指定教科書P9～P19		
3	ソーシャルワーカーの仕事の分類、ソーシャルワーカーが所属する組織（日本と世界）		指定教科書P20～P26		
4	ソーシャルワークの構造（人と環境との関係、人についての見方、（ストレンクスとエンパワメント））・機能		指定教科書P28～P32		
5	社会資源についての見方、ソーシャルワークにおけるニーズ		指定教科書P32～P51		
6	人と環境の相互作用、システム理論（AGIL理論）、システムを考えることの重要性		指定教科書P54～P67		
7	相談援助における援助関係（ミクロ・メゾ・マクロレベルの視点）、援助と支援の違い		指定教科書P70～P76		
8	ソーシャルワーカーが準ずる原則、（バイスティックの7原則、自己覚知）		指定教科書P77～P93		
9	相談援助の展開過程Ⅰ、展開過程の目的と対象・プロセス・構造		指定教科書P96～P101		
10	ケース発見（動機づけによる分類、アウトリーチ、留意点）、インテーク（ラポールの形成、傾聴、個別化）		指定教科書P102～P111		
11	問題発見⇒ニーズ確定⇒アセスメント⇒目標設定⇒プランニング⇒支援の実施まで		指定教科書P112～P136		
12	相談援助の展開過程Ⅱ、モニタリング（目的、方法、内容）、再アセスメント		指定教科書P138～P145		
13	支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発		指定教科書P146～P153		
14	ストレンクスとリフレーミング（グループワーク演習）		資料配布		
15	前期のまとめ				

16	相談援助のためのアウトリーチの技術、アウトリーチとは、アウトリーチの必要性	指定教科書P156～P160
17	アウトリーチの方法と留意点	指定教科書P161～P165
18	相談援助のためのアセスメントの技術、アセスメントツール	指定教科書P182～P204
19	アセスメントの視点（グループワーク演習）	資料配布
20	相談援助のための契約の技術、契約の意義、方法、留意点	指定教科書P168～P179
21	相談援助のための介入の技術、介入の意義、目的、ターゲット	指定教科書P206～P212
22	介入の意義、目的、方法（直接的介入と間接的介入）、留意点、問題解決のための多様な実践アプローチ	指定教科書P213～P221
23	相談援助のためのモニタリング、再アセスメント	指定教科書P224～P238
24	効果測定、評価の技術（集団比較実験デザイン、シングル・システム・デザイン）	指定教科書P239～P248
25	相談援助のための面接の技術、面接の目的、特徴、基本姿勢、面接の展開、導入から終了までの留意点	指定教科書P250～P260
26	面接において用いる技術、観察、傾聴、共感、支持、質問、基本的応答技法、面接の構造	指定教科書P261～P268
27	相談援助のための記録の技術、記録の意義と活用目的、記録の種類、記録の方法、IT化（記録と倫理）	指定教科書P270～P293
28	相談援助のための交渉の技術、交渉の意義と目的、交渉の方法と留意点	指定教科書P296～P315
29	全体のまとめ	
30	期末試験	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければならない。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴		無し

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ				
担当教員	廣川 真之輔		実務授業の有無	○	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	ソーシャルワークの考え方・内容・実践方法について講義を行い、テーマに即した実践場面を紹介し、これらをもとに、グループワークを通して学生同士の理解を深め、ソーシャルワーカーが行う「相談援助」とは何かを考えていく。実践で活用できる相談援助の方法や様々なアプローチについて学ぶ。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	ソーシャルワークに必要な理論や方法を講義を通して理解する。実習等で活かせるよう学生が考え発言できる能力の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	相談援助とは				
3	相談援助とは				
4	対象の理解				
5	対象の理解				
6	社会資源				
7	社会資源				
8	個人情報				
9	コーディネーション				
10	ネットワーキング				
11	集団を活用した相談援助				
12	集団を活用した相談援助				
13	ケースマネジメント				
14	ケースマネジメント				
15	ケアプランについて				
16	スーパービジョン				

17

スーパービジョン



18	ケースカンファレンス	
19	クライアント中心アプローチ	
20	エコロジカルアプローチ	
21	行動理論アプローチ	
22	認知アプローチ	
23	危機介入アプローチ	
24	問題解決アプローチ	
25	エンパワメントアプローチ	
26	課題中心アプローチ	
27	システム理論アプローチ	
28	ナラティブアプローチ	
29	試験	
30	試験解説	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、授業態度、出欠、授業感想等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		<p>科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は          考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければ          ならない。追試不合格の場合は進級・卒業時に          認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位          は与えられません。</p>
実務経験教員の経歴	<p>社会福祉現場でソーシャルワーカーとして実務経験がある教員が、ソーシャルワーク実践の理論、アプローチの基本的理解と活用について指導する科目である。</p>	

科目名	地域福祉論				
担当教員	近山 理子		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	地域福祉についての概念・内容・方法・実際を体系的に理解することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	地域福祉と包括的支援（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス：授業の進め方やワーク、課題の提出について 地域福祉とは、第1章地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題		p 1-36		
2	子ども食堂の活動から見る、地域課題解決のプロセスの整理 問題解決型思考と目標型思考・解決型思考		p 1-36		
3	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制：包括ケアシステム		p 37-74		
4	子ども食堂まとめ：みんなの意見を聞いてみようGW		p 37-74		
5	地域共生社会の実現に向けた包括支援体制：包括ケアシステム		p 37-74		
6	地域福祉ガバナンスと他機関協働		p 76-113		
7	問題提起 障害者アート：なぜアートに障害を付けるのか、商売にすること、作者の権利擁護				
8	障がい者アート：GW		p 76-113		
9	地域ケア会議と合意形成：コンセンサスゲーム、ペアワーク		p 76-113		
10	地域を基盤としたソーシャルワークの展開		p 158-196		
11	高齢者に関する地域課題：買い物支援バスの取り組み		p 158-196		
12	KJ法：災害に遭ったらブレインストーミング 避難所に行くと：私はどんな状態になるのか、そこにはどんな人がいるのか		p 200-235		
13	自分たちの住む地域を災害に備えられる地域にするためにできること		p 200-235		
14	前期のまとめ、テスト、夏休みの課題について				
15	地域福祉とは、身近な地域課題って何がある？GW：自分たちができること 夏休み課題（私の住む街の防災、地域活動に参加する、ボランティアに参加する）				

16	課題発表GW	夏休み課題からのグループワーク、グループ編成
17	GW 地域の課題を解決するアイデア「実現可能な企画」を考える	GW
18	ポートフォリオ、プロジェクト学習	GW
19	ポートフォリオ、プロジェクト学習	GW
20	ポートフォリオ、プロジェクト学習	GW
21	発表資料の作成	GW
22	発表	学生同士の評価を行いながらの参加
23	発表	学生同士の評価を行いながらの参加
24	自身の発表した内容をもとに、実際に地域で活躍する人にインタビューしてみよう	
25	自身の発表した内容をもとに、実際に地域で活躍する人にインタビューしてみよう	グループ毎の振り返り、学生同士の共有
26	福祉計画の意義と種類、策定と運用	p 240-283
27	福祉計画の意義と種類、策定と運用	p 240-283
28	福祉行財政システム	p 285-323
29	福祉行財政システム	p 285-323
30	まとめ	地域福祉論で学んだことについて、小論提出
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴		無し

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	社会保障の概要(1)	授業時に配布する資料による復習
2	社会保障の概要(2)	授業時に配布する資料による予習
3	社会保障の概要(3)	授業時に配布する資料による予習
4	第1章 現代社会と社会保障 人の生活と社会保障、社会保障の理念と機能	テキストの該当部分について準備学習を行う。
5	第2章 社会保障の歴史 諸外国における社会保障の歴史	テキストの該当部分について準備学習を行う。
6	第2章 社会保障の歴史 日本における社会保障の歴史	テキストの該当部分について準備学習を行う。
7	第2章 社会保障の歴史 日本における社会保障の歴史(2)、現在の動向	テキストの該当部分について準備学習を行う。
8	第3章 社会保障の構造 社会保障制度の体系	テキストの該当部分について準備学習を行う。
9	第3章 社会保障の構造 社会保険、社会扶助について	テキストの該当部分について準備学習を行う。
10	第4章 社会保障の財源と費用 社会保障の費用と財源(1)	テキストの該当部分について準備学習を行う。
11	第4章 社会保障の財源と費用 社会保障の費用と財源(2)、関連する統計資料	テキストの該当部分について準備学習を行う。
12	第5章 年金保険制度 制度の沿革と概要、国民年金	テキストの該当部分について準備学習を行う。
13	第5章 年金保険制度 厚生年金	テキストの該当部分について準備学習を行う。
14	第5章 年金保険制度 年金制度をめぐる近年の動向	テキストの該当部分について準備学習を行う。
15	中間のまとめとおさらい	テキストの該当部分について準備学習を行う。

科目名	社会保障論				
担当教員	丸山 仁		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>社会保障の現状、課題の理解とともに社会保障の歴史、医療保険、年金保険、労働保険、介護保険、民間保険などに関する知識を習得する。日本の社会保障制度の理念と機能と歴史、具体的な各制度の概要、民間保険、海外の社会保障制度等について学ぶ。(授業方法：講義/対面授業と遠隔授業の併用)</p>				
学習目標(到達目標)	<p>わが国の社会保障の概念や対象及びその理念等や歴史的な発展過程について説明することができる。年金保険制度や医療保険制度の基本的な知識を身につけ、制度の概要や仕組みについて述べることができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>社会保障(中央法規)・その他配布資料</p>				

16	第6章 医療保険制度 制度の沿革と歴史、国民年金	テキストの該当部分について準備学習を行う。
17	第6章 医療保険制度 健康保険、共済保険	テキストの該当部分について準備学習を行う。
18	第6章 医療保険制度 後期高齢者医療、国民医療費、近年の動向	テキストの該当部分について準備学習を行う。
19	第7章 介護保険制度 概要、近年の動向	テキストの該当部分について準備学習を行う。
20	第8章 労働保険制度 制度の沿革と概要、労働者災害補償保険	テキストの該当部分について準備学習を行う。
21	第8章 労働保険制度 雇用保険	テキストの該当部分について準備学習を行う。
22	第8章 労働保険制度 求職者支援制度、関連施策、近年の動向	テキストの該当部分について準備学習を行う。
23	第9章 社会福祉制度 公的扶助、児童家庭福祉、障害者福祉	テキストの該当部分について準備学習を行う。
24	第9章 社会福祉制度 ひとり親家庭への支援、高齢者福祉、社会手当	テキストの該当部分について準備学習を行う。
25	第10章 社会保障と民間保険 民間保険の機能と概要、企業年金および個人年金	テキストの該当部分について準備学習を行う。
26	第11章 社会保障が直面する課題 少子高齢化との関連	テキストの該当部分について準備学習を行う。
27	第11章 社会保障が直面する課題 労働市場、雇用状況との関連	テキストの該当部分について準備学習を行う。
28	第12章 諸外国における社会保障制度 類型と概要	テキストの該当部分について準備学習を行う。
29	各種統計の概要 社会保障費用統計、労働力調査、人口動態統計 等	公表されているデータについての確認を行う。
30	事例等における、理解の視点や考え方の整理 全体のまとめ	1年間の学習内容についての確認を行う。
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>成績評価内容は小テスト、授業態度等を総合的に判断して行う</li> <li>成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴		無し

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度				
担当教員	近山 理子・工藤 大地	実務授業の有無	×		
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。介護保険制度と、高齢者の身体やこころの理解を事例を通して学び、その他に必要とされる高齢者に関する制度の理解を深めます。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標 (到達目標)	老人福祉法、高齢者住まい法、高齢者虐待防止法の概要について説明できる 介護保険制度の概要について説明できる 認知症の施策や介護の概要について説明できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	高齢者福祉（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	高齢者の定義と特徴 高齢者のイメージの共有と理解 私が高齢者になったら		毎回、下記教科書の予習をして授業に参加のこと p1-15		
2	高齢者の理解：課題の共有、身体的側面 身体的側面		p16-p22		
3	高齢者の理解：課題の共有、介護保険の利用		p70-86		
4	介護保険制度、申請の手順と包括支援センター		p87-110		
5	動画視聴、「ぼけますからよろしく」		p1-44		
6	高齢者を取り巻く社会環境		p24-44		
7	高齢者福祉の歴史		p45-67		
8	関連諸制度（法体系、老人福祉法、高齢者医療確保法、バリアフリー法、高齢者住まい法）		p112-167		
9	関連諸制度（高齢者虐待防止法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援、その他）		p112-167		
10	復習：介護保険制度、高齢者虐待防止法、包括支援センター		p70-167		
11	高齢者と家族支援		p170-188		
12	専門職の役割		p170-188		
13	家族支援と事例		p190-243		
14	前期まとめ、テスト				
15	事例演習				

16	高齢者の生活実態	前期で学習した内容をもとに国家試験合格に向けた知識の確認をしていく（適宜確認プリントを配布し実施）
17	高齢者福祉制度の発展過程	
18	高齢者福祉関連法（老人福祉法）	
19	高齢者福祉関連法（高齢者虐待防止法）	
20	高齢者福祉関連法（バリアフリー新法、高齢者住まい法、高年齢者雇用安定法）	
21	介護保険制度の概要	
22	介護保険制度によるサービス（居宅サービス、地域密着型サービス）	
23	介護保険制度によるサービス（施設サービス、地域支援事業など）	
24	介護保険制度に係る組織と専門職（国、都道府県、市町村、国民健康保険団体連合会の役割）	
25	介護保険制度に係る組織と専門職（地域包括支援センターの役割、介護支援専門員、福祉用具専門相談員など）	
26	介護の概念（介護の原則、介護予防の必要性）	
27	日常生活における介護技術（移動、食事、排せつ、衣服着脱、褥瘡の介護）	
28	認知症・終末期の介護	
29	住環境の整備（バリアフリーな空間づくりとは）	
30	まとめ・確認テスト	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴		無し

科目名	障害者福祉論				
担当教員	坂上 美由紀		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学ぶ。障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	障害者福祉に関する手帳制度や法律の概要について説明できる。 障害者総合支援法の概要について説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	障害者福祉（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション・この科目で何をどのように学ぶかを理解する・障害のある人とはどのような人たち化を知ることができる・障害についてのマークを理解する		プリント・話し合い		
2	障害の概念・福祉における障害の定義と障害のとらえ方を理解できる・歴史的背景としてICIDHからICFへの変遷を理解できる		プリント		
3	障害のある人の心理・障害が及ぼす心理的影響を理解できる・障害の需要過程を理解する		プリント		
4	視覚障害・視覚障害の人の気持ちを理解する・視覚障害者の歩行支援の方法が理解できる		アイマスク・白状を使用し、白山公園まで歩行する戻ってからレポートを作成		
5	視覚障害・視覚障害の種類・原因を理解する・視覚障害の身体的特性・心理的側面・生活面の理解ができる		プリント		
6	聴覚・言語障害・聴覚・言語障害の種類・原因を理解する・聴覚・言語障害の身体的特性・心理的側面・生活面の理解ができる		プリント		
7	重複障害・障害の種類と原因を理解する・重複障害児への支援を理解する		プリント DVDの視聴・レポート作成		
8	重複障害・障害の種類と原因を理解する・重複障害児への支援を理解する		DVDの視聴・レポート作成		
9	肢体不自由・肢体不自由の種類、原因が理解できる・肢体不自由者の身体的特性・心理的側面・生活面の理解ができる		プリント		
10	難病・難病の種類と原因を理解する		プリント DVDの視聴・レポート作成		
11	難病・難病の種類と原因を理解する		DVDの視聴・レポート作成		
12	発達障害・障害の種類を理解する・発達障害児への支援を理解する		プリント		
13	内部障害・心臓機能障害の種類や原因を理解する		プリント		
14	内部障害・呼吸機能障害の種類や原因を理解する		プリント		
15	後期授業のまとめ・復習 後期評価試験		プリント 後期評価試験		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		



<ul style="list-style-type: none"><li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li><li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li><li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li></ul>	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は 考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴	無し

科目名	児童福祉論				
担当教員	坂井 摂子		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	子どもを取り巻く家庭、地域、社会などの環境の変化を理解し、それを踏まえた児童福祉の基礎を学ぶ。また、子どもの貧困、児童虐待などの問題に触れ、問題に対する専門職としての捉え方は何かを考える。児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。児童の権利について理解する。相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用）				
学習目標 (到達目標)	児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解を深めるとともに、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利、児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について考察することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（中央法規）、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス 講義の進め方と留意点				
2	絶対的貧困と世界のこども・権利				
3	相対的貧困と母子世帯		p 45, 46 p 124-126		
4	児童の手当、支援制度		p 75, 76 p 198-206		
5	貧困が子どもに及ぼす影響		ディスカッション		
6	貧困と少年犯罪		p231-243		
7	少年法、少年院・児童自立支援施設				
8	児童虐待の防止等に関する法律とその改正点		p82, 83 p 220, 221		
9	児童虐待対策				
10	児童虐待対策		p 244-260		
11	自立援助ホーム		p 244-260		
12	施設養護と家庭養護		p255, 286		
13	児童福祉に関する法律と改正点		p215-219 p221, 222		
14	児童の権利		p11-18		
15	全体のまとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<ul style="list-style-type: none"><li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li><li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li><li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li></ul>	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は 考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴	無し

科目名	公的扶助論				
担当教員	近藤 倫代		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	生活保護制度を中心に、その原理・原則、保護の種類・範囲、方法、基準、実施機関など理解を深めるとともに、その他の低所得者や生活困窮者等への対策にも触れ、憲法第25条「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなものなのかを考える。現代的な貧困を生み出している社会構造に焦点をあて、貧困の連鎖、格差の連鎖を断つために、何が必要なのかを考察する。また、生活保護制度と各種制度や相談機関等について理解を深める。(授業方法：講義/対面授業と遠隔授業の併用実施)				
学習目標 (到達目標)	低所得者関連の制度について基礎的な知識を身に付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	低所得者に対する支援と生活保護制度(中央法規) 反貧困学習 各社の連鎖をたつために(大阪府立西成高等学校 著)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、公的扶助の概念				
2	貧困の概念 生活保護制度①				
3	生活保護制度②				
4	「子どもの貧困」からセーフティーネットを考える		演習		
5	「ネットカフェ難民」からセーフティーネットを考える		演習		
6	「ワーキングプア」からセーフティーネットを考える		演習		
7	「シングルマザー」からセーフティーネットを考える		演習		
8	「ホームレス中学生」からセーフティーネットを考える		演習		
9	「貧困ビジネス」からセーフティーネットを考える		演習		
10	「ハウジングプア」からセーフティーネットを考える		演習		
11	「無保険」からセーフティーネットを考える		演習		
12	労働者を守る法律や制度				
13	社会的排除について考える		演習		
14	貧困のスパイラルを断ち切ろう		演習		
15	まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、 B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>	<p>科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は          考査の対象とならずD評価となり追試を受験しな          ければならない。追試不合格の場合は進級・卒業時に          認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位          は与えられません。</p>
<p>実務経験教員の経歴</p>	<p>無し</p>

科目名	権利擁護と成年後見				
担当教員	笠原 悦子		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	判断能力の不十分な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などの法的支援や自己実現に向けての支援を理解する。判断能力の不十分な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などを支援するために必要な機関や専門職と連携しチーム支援を行うときのソーシャルワーカーが担う役割を理解する。ソーシャルワーカーとして判断能力の不十分な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等の権利を代弁したり、代行したりする役割を果たすために、日本国憲法の基本原理、民法、行政法、社会法、成年後見制度に関する法律を踏まえ理解する。授業方法は、プリントを配布し講義形式で行っていく。事例を提示しGWを行い使える制度、サービスについて理解を深める。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	権利擁護にかかわる法律と、成年後見制度の概要を理解する。 判断能力の低下した対象者に対する支援について具体的にイメージすることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	権利擁護を支える法制度（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション 権利に必要な法制度		第1章第1節		
2	日本国憲法（基本原理・基本的人権・幸福追求権を中心に）		第1章第2節		
3	日本国憲法の理解		第1章2節 第2章1節2節3節4節		
4	行政法（行政組織、行為により権利が侵害された場合の救済法）		第1章第4節		
5	行政法（行政組織、行為により権利が侵害された場合の救済法）		第1章第4節		
6	民法（消費者保護に関する法律）		第1章第3節		
7	民法（親族法、相続法等）		第1章第3節		
8	権利擁護の意義と仕組み		第3章全般		
9	権利擁護活動と意思決定支援		第4章全般		
10	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職		第5章全般		
11	権利擁護についてのまとめ				
12	成年後見制度（法定後見制度）		第6章第1節2節3節4節		
13	成年後見制度（任意後見制度）		第6章第1節2節3節4節		
14	成年後見制度（事例）・最近の動向		第6章第5節6節		
15	総括（授業の振り返り）				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<ul style="list-style-type: none"><li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li><li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li><li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li></ul>	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は 考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴	無し

科目名	社会学				
担当教員	中山 健		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会制度や生活の歴史的変遷やさまざまな領域の問題を見ていくことで、福祉の現場実践を行なっていくうえでの知識を身につける。テキストに準拠しながら、最新のニュースとからめて話をすることで具体的なイメージをつかんでもらい、テキストを理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標（到達目標）	社会福祉士にとって必要な、社会の成り立つ仕組みについて知り、人間同士の関係性や生活世界に関心を持ち、社会問題の所在について十分な知識を得る。業務を行う為に必要な社会の中の個人を見据え、人々の社会的行為とは何か、その集合体とは何かについての理解を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会理論と社会システム（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会学とは		指定テキストP1～13		
2	社会システム		指定テキストP14～31		
3	法と社会システム		指定テキストP32～44		
4	経済と社会システム		指定テキストP45～57		
5	社会変動		指定テキストP58～71		
6	人口からみた社会変動		指定テキストP72～91		
7	生活のとらえ方		指定テキストP92～104		
8	家族		指定テキストP105～119		
9	地域		指定テキストP120～137		
10	社会的行為		指定テキストP138～150		
11	社会的役割		指定テキストP511～163		
12	社会集団と組織		指定テキストP164～175		
13	社会的ジレンマ、社会関係資本と社会的連帯		指定テキストP176～199		
14	社会問題のとらえ方		指定テキストP200～210		
15	日本社会と社会問題		指定テキストP211～225		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		



<ul style="list-style-type: none"><li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li><li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li><li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li></ul>	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は 考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴	無し

科目名	社会福祉調査論				
担当教員	中山 健		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	客観的な社会的事実を認識する数量的、質的な方法論を学び、社会科学唯一の方法ともいえる社会調査の意義と方法及び相談援助における社会調査の意義について理解し、相談援助実践の中の社会的事実を認識し、クライアントが求める相談援助が展開できるような知識と技術の習得を目指す。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用実施）				
学習目標 (到達目標)	国家試験出題範囲の理解と習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会調査の基礎（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会調査とは何か、社会福祉士の役割と社会調査		指定テキストP1～20		
2	社会福祉と社会調査、社会調査の意義と目的		指定テキストP21～37		
3	社会調査の対象と方法、社会調査を取り巻く状況、統計法の概要		指定テキストP38～55		
4	量的調査の特徴と種類		指定テキストP56～62		
5	調査票の作成方法と留意点		指定テキストP63～71		
6	調査票の配布と回収		指定テキストP72～75		
7	量的調査におけるデータ分析(1)		指定テキストP76～84		
8	量的調査におけるデータ分析(2)		指定テキストP85～90		
9	量的調査におけるデータ分析(3)		指定テキストP91～95		
10	量的調査におけるデータ分析(4)		指定テキストP96～108		
11	質的調査の特徴と種類、調査設計		指定テキストP110～121		
12	対象者の選定と調査手続き、調査手法、質的調査における調査の実施		指定テキストP122～138		
13	質的調査におけるデータの分析、質的調査における発表、報告		指定テキストP139～156		
14	社会調査における倫理と個人情報保護 社会調査の実施にあたってのITの活用方法		指定テキストP158～177		
15	予備日				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<ul style="list-style-type: none"><li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li><li>・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等</li><li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li></ul>	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は 考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。
実務経験教員の経歴	無し

科目名	医学概論				
担当教員	村山 ひとみ		実務授業の有無	○	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	人の身体構造と心身機能について理解する。人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。健康・疾病の捉え方について理解する。疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。（授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用）				
学習目標（到達目標）	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長や発達、日常生活との関係を踏まえて理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	人体の構造と機能及び疾病（中央法規）、科目担当作成、配布プリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	※第2章身体構造と心身の機能（対人援助職における対象者理解のため、動機付け）		医学的観点からの身体構造・心身の機能の定義を説明・確認する		
2	※第2章身体構造と心身の機能（医学的観点から身体を学ぶ、正常機能を基準として）		指定テキストP26～P52 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
3	※第2章身体構造と心身の機能（医学的観点から身体を学ぶ、正常機能を基準として）		指定テキストP26～P52 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
4	※第2章身体構造と心身の機能（医学的観点から身体を学ぶ、正常機能を基準として）		指定テキストP26～P52 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
5	※第2章身体構造と心身の機能（医学的観点から身体を学ぶ、正常機能を基準として）		指定テキストP26～P52 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
6	※第1章人の成長・発達と老化（人体の正常機能を基準を学んだ第2章をもとに人体の成り行きを学ぶ）		指定テキストP2～P22 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
7	※第6章国際生活機能分類の基本的考え方と概要（対象者の生活場面を想像してICFの利用を考えた目線で学ぶ）		指定テキストP194～P203、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
8	※第6章国際生活機能分類の基本的考え方と概要（対象者の生活場面を想像してICFの利用を考えた目線で学ぶ）		指定テキストP194～P203、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
9	※第5章リハビリテーションの概要（疾病・障害により必要とされる心身の機能維持機能向上と多職種連携を理解して学ぶ）		指定テキストP174～P191、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
10	※第3章 疾病の概要（比較的有名な代表疾患を正常機能の身体と比較して学ぶ）		指定テキストP54～P122、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
11	※第3章 疾病の概要（比較的有名な代表疾患を正常機能の身体と比較して学ぶ）		指定テキストP54～P122、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
12	※第4章障害の概要（障害分類の重要性と障害の正体としての疾病を関係図けて学ぶ）		指定テキストP130～P170、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
13	※第4章障害の概要（障害分類の重要性と障害の正体としての疾病を関係図けて学ぶ）		指定テキストP130～P170、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
14	※第7章健康のとらえ方（健康に向けた現代までの動向や健康への評価、人々への啓蒙・周知を意識して学ぶ）		指定テキストP206～P238、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
15	※第7章健康のとらえ方（健康に向けた現代までの動向や健康への評価、人々への啓蒙・周知を意識して学ぶ）		指定テキストP206～P238、配布プリント説明・確認 ※授業進度に合わせ範囲調整あり		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<p>・成績評価は原則各科目終了時に実施・成績評価内容は科目終了時の評価試験、宿題実施状況、授業態度、出席率を加味する・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</p>	<p>科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考查の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。授業で使用するため、補足配布のプリントを持参する。</p>
<p>実務経験教員の経歴</p>	<p>医療機関で看護師として実務経験のある教員が、人体の解剖学的な構造や機能・しくみ等を理解し国家試験合格に向けて指導する科目である。</p>

科目名	体験実習指導				
担当教員	廣川 真之輔	実務授業の有無	○		
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	体験実習にむけての心構えや目標の立て方を理解する。さまざまな福祉施設の理解に努める。 (授業方法：講義／対面授業と遠隔授業の併用)				
学習目標 (到達目標)	8日間の体験実習（○評価以上）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	体験実習の手引き、各種フォーマット等を適宜配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	体験実習報告会（2年生発表）				
3	体験実習報告会（2年生発表）				
4	体験実習報告会（3年生発表）				
5	体験実習報告会（3年生発表）				
6	コミュニケーション技術				
7	コミュニケーション技術				
8	自己開示				
9	自己開示				
10	自己覚知				
11	自己覚知				
12	価値観の理解				
13	価値観の理解				
14	施設見学①事前学習				
15	施設見学①（高齢者施設）				
16	施設見学①振り返り		レポート提出		

17	施設見学②事前学習	
18	施設見学②（障害者施設）	
19	施設見学②振り返り	レポート提出
20	実習先について（事前学習）	
21	実習先について（事前学習）	
22	実習先について（事前学習）	
23	実習目標作成	
24	実習目標作成	
25	実習目標作成	
26	実習目標作成	
27	実習前オリエンテーションについて	1 月中に補講で行う
28	誓約書等書類作成	1 月中に補講で行う
29	実習日誌記録について	1 月中に補講で行う
30	実習前注意事項	1 月中に補講で行う
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・ 成績評価内容はレポート、授業態度等</li> <li>・ 成績評価基準は S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>		<p>1. 科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は          考查の対象とならずD評価となり実習をやり直し。2. 実          習開始時に出席率80%以上ない者は実習を行うことが          できない。3. 出席率を満たしていても必要な授業に参加          していなければ、補講を受けない限り実習を行うことが          できない。4. 授業態度、身だしなみ等で学校のルールを順守          できない者は実習を行うことができない。</p>
実務経験教員の経歴	福祉施設で社会福祉士として実習指導経験がある教員が、実習の心構えや、目標の立て方を学ぶ科目である。	

科目名	体験実習				
担当教員	実習指導者	実務授業の有無	○		
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会福祉施設等で2月～3月に体験実習（8日間）を行う。デイサービスセンター等での実習を通して施設や利用者の理解を深める。（授業方法：実習）				
学習目標 （到達目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デイサービスセンター等の理解を深める。</li> <li>・ 積極的に利用者及び職員とコミュニケーションを取ることができる。</li> <li>・ 安全で楽しいレクリエーションを実施することができる。</li> </ul>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	体験実習の手引き、各種フォーマット等を適宜配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション				
2	利用者の理解				
3	利用者の理解				
4	利用者の理解				
5	施設理解				
6	施設理解				
7	施設理解				
8	レクリエーションの実施				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・ 成績評価内容は実習先評価（実習姿勢、利用者や施設の理解等）と巡回担当教員による評価</li> <li>・ 成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>			<p>1. 科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考查の対象とならずD評価となり実習をやり直し。2. 評価がC以上とならない場合は2年次相談援助実習に進むことができません。3. 実習開始時に出席率80%以上ない者は実習を行うことができない。4. 出席率を満たしていても必要な授業に参加していなければ、補講を受けない限り実習を行うことができない。5. 授業態度、身だしなみ等で学校のルールを順守できない者は実習を行うことができない。</p>		
実務経験教員の経歴	実習先の各分野の施設における社会福祉士としての経験を活かし、相談員の心構えや施設での役割、利用者との関わり方等を教える。				



科目名	相談援助演習				
担当教員	工藤 大地		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	実践現場に必要な基本的技術についてグループワークを行いながら学習していく科目である。相談援助に必要な基本的技術について、グループワークやロールプレイ等を通して習得を目指す。他者との交流を通じ、自己理解を深めるとともに、コミュニケーションの構造を説明し、人の話を聴く・自分の考えを伝える能力を養うための演習を行う（授業方法：講義・演習／対面授業と遠隔授業の併用）				
学習目標（到達目標）	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	相談援助演習（ミネルヴァ書房）、適宜資料を配布、福祉小六法（中央法規）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	相談援助演習とは何か、相談援助活動（ソーシャルワーク）のプロセス		オリエンテーション、指定教科書P1～P19、P89～P93		
2	ケース発見 事例1・2、受理面接（インテーク） 事例3		指定教科書P94～P99		
3	アセスメント 事例4～6		指定教科書P99～P103		
4	アセスメント 事例7～9		指定教科書P104～P113		
5	アセスメント 事例10		指定教科書P113～P119		
6	支援目標の設定 事例11、支援計画の作成（プランニング） 事例12		指定教科書P119～P121		
7	支援計画の作成（プランニング） 事例13、援助の実施 事例14		指定教科書P121～P129		
8	モニタリング 事例15、終結 事例16		指定教科書P129～P133		
9	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 事例1		指定教科書P136～P141		
10	地域におけるネットワーキング 事例2		指定教科書P141～P148		
11	住民組織化とネットワーク 事例3～5		指定教科書P149～P153		
12	社会資源の改善・開発 事例6		指定教科書P153～P158		
13	地域福祉の計画と住民参加 事例7		指定教科書P158～P164		
14	住民エンパワメントとサービス評価 事例8～11		指定教科書P164～P170		
15	まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容はレポート、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、 B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>	<p>科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は          考査の対象とならずD評価となり追試を受験しな          ければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時          に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単          位は与えられません。</p>
<p>実務経験教員の経歴</p>	<p>無し</p>

科目名		介護技術演習			
担当教員		本間 なつみ	実務授業の有無		○
対象学科		医療福祉マネジメント学科	対象学年		1年
必修・選択		必修	単位数		1
			開講時期		前期
			時間数		12時間
授業概要、目的、授業の進め方		実習に向けて、今まで学んだ介護技術の総復習を実施しながら介護技術の基礎的な内容をもとに、事例を通して利用者の状態に応じた介護実践を考え、実行する。（授業方法：講義・演習／対面授業と遠隔授業の併用）			
学習目標（到達目標）		基本的な介護技術（全介助・一部介助）が出来る。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		人にやさしい介護技術（中央法規）、その他配布資料			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	介護技術の基礎 振り返り		講義・演習	基礎的な介護技術の振り返り	
2	更衣の介助（事例）		講義・演習	事例を通して考察・実践	
3	更衣の介助（事例）		講義・演習	事例を通して考察・実践	
4	移乗・移動の介助（事例）		講義・演習	事例を通して考察・実践	
5	移乗・移動の介助（事例）		講義・演習	事例を通して考察・実践	
6	リスクマネジメント（危険予知訓練）		講義・演習	事例を通して考察・実践	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>・成績評価内容は、実技の習熟度（小テストの実施）、授業態度等</li> <li>・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）</li> </ul>			科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考查の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。		
実務経験教員の経歴		介護福祉施設にて介護福祉士として実務経験のある教員が、科学的な根拠に基づいた介護の技術を知識だけでなく実践できるように指導する科目である。			

科目名	オンデマンド・I				
担当教員	担 任		実務授業の有無	×	
対象学科	医療福祉マネジメント学科	対象学年	1年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	20	時間数	300時間
授業概要、目的、授業の進め方	オンデマンド授業にて科目履修、合格に向け各自で科目を選びつつ学習を進める。日本福祉大学より示された当該科目の学習目標に準ずる。科目修了試験ごとにクラス担任が「進捗状況確認表」にて、随時進捗状況を確認しながら進めていく。(授業方法：演習)				
学習目標 (到達目標)	1年次に指定されている科目をすべて履修する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パソコン、該当科目のテキスト、その他資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
全150回	1～150回 オンデマンド (社会福祉学、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅲ、地域福祉論、社会保障論、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者福祉論、児童福祉論、公的扶助論、権利擁護と成年後見、社会学、社会福祉調査論、医学概論、スタートアップセッション、福祉経営序論、福祉社会入門、高齢者の心理、インターネット演習Ⅰ、インターネット演習Ⅱ)		各自パソコンを用いてオンデマンド学習をすすめていく		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
<ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価は原則各科目終了時に実施</li> <li>成績評価内容は日本福祉大学科目修了試験結果、授業態度等</li> <li>成績評価基準はA(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59～0点)</li> </ul>		1. 科目修了試験の申込期間までにオンデマンド学習を終了していなければ科目修了試験を受験できません。 2. 年間4回の科目修了試験で受験できる回数は最大で2回までです。仮に受験科目が2回D評価となった場合は科目未履修となり次年度へ持ち越しとなります。その場合は追加履修登録料金が発生しますので注意すること。			
実務経験教員の経歴	無し				